

農学委員会 農業経済学分科会（第24期・第2回）議事要旨

日時：平成30年6月26日（火）13：30～16：00

場所：日本学術会議5階 5-C(1)会議室

出席者：小田切委員、清原委員、小山委員、櫻井委員、生源寺委員、立川委員、中嶋委員、
納口委員

オブザーバー：農林水産省大臣官房統計部管理課 神井課長、都田企画管理官補佐

欠席者：新山委員、吉田委員

議事

1. 「報告（案）農業経済学教育のあり方」について

小田切委員より、これまで日本農業経済学会 HP 上でパブリックコメントを受け付け、学術会議事務局による様式・表記等の暫定チェックを受けたことが報告された。今後、分科会としての最終案を決定し、査読過程に進む予定である。

2. 農林統計の将来像について

オブザーバーとして出席された、農林水産省神井課長から、「技術革新下の農林統計」と題する報告を受け、議論を行った。主要な議論のポイントは、以下の諸点であった。

- ・農業経済学分野において、統計政策やデータ化技術をめぐる最新状況を把握する必要性。
- ・研究手法の高度化に対応した統計データの利用可能性の確保。
- ・EBPM 志向の強化がもたらす統計データの選択・集中傾向とその長期的含意。
- ・公益性 VS 利益目的、オープンデータ VS クローズドデータなどの仕分けに関する整理。
- ・官庁統計と民間データをどのように利用可能な形で蓄積していくか。
- ・社会で求められる新たな統計データを研究主導で提案する必要性。
- ・農林統計のニーズや意義を、国民的観点から再評価する必要性。
- ・大学と農林統計部局との連携のあり方。

3. 特任連携会員の候補者について

特任連携会員候補者は、今後の分科会で検討することになった。

4. その他

なし